

学部・研究科名 生命科学研究科（農学研究科）  
 学部長・研究科委員長名 坂田 洋一（上原 万里子）  
 学科名・専攻名 バイオサイエンス専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	特論・特論実験・特別演習・特別実験・特別研究の必修科目のほか、分野横断的な選択科目（生命情報科学・分子細胞生物学など）および論文英語・プレゼンテーション法など、大学院博士前期、後期課程にふさわしい授業を実施している。特に分野横断型選択科目については、積極的に学外の第一線の講師を呼んで、講義を行っている。	教員、学生間また学生同士の交流を活性化するため、ポスター形式による専攻全体での中間発表会、懇親会などを行っている。	学生の活動率評価、中間報告会、修論発表会等により評価する。	研究室毎のゼミ、授業の習熟度および、専攻全体の発表会に基づき評価している。	研究室毎のゼミ、授業評価等に基づき、全所属教員により定期的に点検・評価し、その結果について専攻会議で慎重に議論し、教育課程の内容と方法を決定している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・先端研究の知識、技術を身につけられる点。	【長所】 学生自身の自主性を尊重する点	【長所】 特になし	【長所】 グループだけでなく個人とのディスカッションを通じてきめ細かな指導を行っている。	【長所】 特になし
	【特色】 ・外部講師等、学外の情報も積極的に取り入れられる点	【特色】 学部からの内部進学生が多く学生間の交流が活発な点	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	大学院カリキュラム、大学院学生便覧、大学院シラバス、学外講師一覧、専攻3ポリシー	中間発表実施記録	中間発表実施記録、修論発表会実施記録	専攻全体の発表会実施記録、専攻3ポリシー	

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッショ・ポリシーに基づき、生命科学に強い関心を持ち、食糧、環境、健康問題の解決にチャレンジできる学生を求めている。大学院進学後に必要な学力を評価するために分子生物学、英語を試験科目として科しており、これらの筆記試験に加え、複数の教員による面接を実施している。全ての科目の試験後に専攻長を中心とした専攻教員全員による入試判定委員会により公正かつ客観的に選抜している。	試験後に選考会議を実施し、専攻の教員で十分に議論した上で選抜する。また研究室毎のゼミだけでなく、中間発表会より専攻全体で適切性について判断する。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・受験生とは選抜試験前からコンタクトを取り、進学後や卒業後の進路についてディスカッションを行っている。	<b>【長所】</b> ・一人の学生の教育に複数教員が関与するため公正に点検、評価できる点
	<b>【特色】</b> ・面接では専門知識だけでなく人柄も確認できる。	<b>【特色】</b> ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	大学院入試募集要項、専攻3ポリシー	中間発表実施記録

## 3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	設置の趣旨に基づき、学科の専任教員を配置している。専任教員の採用は、原則として公募し、募集要項にて専門分野に関する能力、教育に対する姿勢などの資質を明記している。 また、大学の理念・目的、研究科の教員組織の編成に基づき、専攻の教員組織の編成方針を作成し、本学のホームページ上で公開している。	指導教授として文部科学省の設置基準を上回る教授 13 名を配置しており、十分な教育、研究指導を行うことができる。	専攻の教授により構成される人事委員会により以下の根拠資料に基づき実施している。	自己教育評価、授業評価により、授業、研究指導、国際交流、大学運営、課外活動、学外活動を評価している。また、全学的な FD 委員会にも参加をしている。また教員全員が原則として科学研究費補助金をはじめとする外部研究資金に申請することになっている。	学部改組に伴い、本専攻の教員組織に関しても教員体制を変更した。動物、植物、細胞分子機能の 3 分野の体制は維持し、それぞれの分野を専門とする教員を配置した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・生命科学の幅広い分野を網羅できる教員の配置	<b>【長所】</b> ・動物、植物、細胞分子機能の 3 分野にバランス良く教員を配置している点	<b>【長所】</b> ・人事委員会による教員体制の定期的な確認	<b>【長所】</b> ・外部研究資金の獲得推進	<b>【長所】</b> ・3 分野に各 2 研究室というバランス良い教員体制
	<b>【特色】</b> ・同上	<b>【特色】</b> ・適切な年齢、職位バランスを考慮した採用、昇任を行っている点	<b>【特色】</b> ・各活動の点数化による明確な昇格目標の提示	<b>【特色】</b> ・外部研究資金への申請	<b>【特色】</b> ・複数の女性教員の配置
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	学科（専攻）教員配置表	学科（専攻）教員配置表	◆教務職員資格審査基準及び関連書類	科研費等外部資金申請状況	学科（専攻）教員配置表

学部・研究科名 生命科学研究所  
 学部長・研究科委員長名 坂田 洋一  
 学科名・専攻名 分子生命化学専攻

## 1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	設置初年度の専攻であるため、文部科学省に対する設置申請に基づいた教育課程を編成しており、特論科目、特別実験、特別演習の他、分野横断型科目や英語論文購読、プレゼンテーション法など、修士課程に相応しいカリキュラムを編成している。	自主的な研究活動を推奨するとともに、特別演習や英語論文購読、研究報告会での学生同士、学生と教員間の活発な議論を通じて交流を活性化している。また、来年度初頭には修士2年生による中間発表会も予定している。	各分野に対する理解度や演習での積極性などに加え、日常的な研究姿勢や研究報告も踏まえて、総合的に評価している。学位授与方針に従った学位授与を予定している。	伝統的な化学の視点を保持しながらも、時代の変化に囚われない普遍的な価値を持ち、確かな自然科学系の基礎知識・技術を身につけた人材の養成のため、習熟度や研究姿勢などから総合的に評価している。	設置初年度の専攻であり、完成年度に総合的な点検を行う予定であるが、博士後期課程の設置申請を通じて、修士課程に関しても全体的に見直し、問題ないことを確認している。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・幅広い知識を習得出来る	<b>【長所】</b> ・学生の自主性	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・議論を通じた総合的な指導と評価	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・最先端の研究を実施出来る	<b>【特色】</b> ・教員と学生の活発な交流	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	講義要項	研究報告会資料	専攻3ポリシー	研究報告会資料、専攻3ポリシー	博士後期課程設置申請資料

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	受け入れ方針に基づき、化学を中心とする伝統的科学に興味と学習意欲を持ち、農学・生命科学領域における問題の解決を目指す学生を求めている。大学院進学後に必要な学力と意欲を評価するために、専門科目（5科目から2科目）と英語の筆記試験とともに、複数教員による口述試験を課している。試験問題は専攻教員からなる入試委員会で相互確認し、出題の適正や難易度を判断している。試験結果については専攻教員全員で合否を審議し、客観的で公正な選抜を実施している。	年2回の大学院入試の前後に、求める学生像や受け入れ人数、試験問題の出題方針などを専攻内で議論している。設置1年目であるが、受け入れた大学院生については複数教員で指導を行い、大学院生としての資質、学力、研究推進力などを備えていることを確認し、受け入れの適切性についても確認している。博士後期課程の設置に備え、受入の方法などについて専攻内で議論中である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・専門科目が選択でき、広い学識とともに高い専門性も測ることが出来る。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・指導教員だけでなく複数教員による客観的な指導と公正な評価
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	大学院募集要項、専攻3ポリシー	研究報告会資料、専攻3ポリシー

## 3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻設置の趣旨に基づき、農学・生命科学領域において化学的知識に基づいた展開可能な基礎力を駆使し様々な案件に対応可能な人材を養成可能な専任教員を配置する方針としている。教員の公募、採用時には本方針を明示している。	専任教員13名（教授4名、准教授5名、助教4名）を2分野（有機化学分野、分子機能解析学分野）にバランス良く配置し、十分な教育・研究指導が可能な体制を整えている。本年度は新規助教3名の採用を適切に行った。	教員人事に関しては、専攻内の専任教授よりなる人事委員会を組織し、大学の定める「教員採用・昇格に関する条件」に基づき判断している。本年度は新規助教3名を採用するとともに、来年度退職予定者の後任人事1名について検討を開始した。	新任教員に対する研修を通じて教員としての資質向上をはかっている。また、自己教育評価や学生による授業評価を通じた評価体制が整っている。	教員の資質や年齢構成を総合的に判断しながら教員の配置を行っている。本年度は新規助教3名を採用するとともに、来年度退職予定者の後任人事1名について検討を開始し、継続的な教育・研究体制の維持を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・化学を基盤とした教育・研究体制の充実	<b>【長所】</b> ・化学を基盤とした教育・研究体制の充実	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・化学を基盤とした幅広い生命科学分野の教員配置	<b>【特色】</b> ・化学を基盤とした幅広い生命科学分野の教員配置	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・適正状態の維持に必要な人事	<b>【課題】</b> ・適正状態の維持に必要な人事	<b>【課題】</b> ・	<b>【課題】</b> ・適正状態の維持に必要な人事
根拠資料名	設置の趣旨	学科ホームページ	人事申請資料	自己教育評価 授業評価	なし

学部・研究科名 生命科学部  
 学部長・研究科委員長名 坂田 洋一  
 学科名・専攻名 分子微生物学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻の特性を反映した科目である特論科目、特別実験、特別演習に加えて、論文英語やプレゼンテーション法といった、研究を推進する上で必要な学位課程にふさわしい科目を体系的に編成している。	教員と大学院生の議論の場を研究室内および専攻内で設けると共に、論文紹介等を通じて研究の最新情報を得て大学院生の研究意欲を活性化させている。	授業内容の理解度や積極性、研究への取り組み姿勢に基づいて適切に成績評価および単位認定を行っている。	研究室で実施するゼミや専攻内の発表会によって学習成果を把握し、評価している。	研究室内および専攻内で定期的な教育内容の点検や評価をしている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 研究に必要な一連のスキルが習得できる。	【長所】 自主性や意欲の向上	【長所】 なし	【長所】 議論により、理解度を見極め、必要に応じて適切な指導ができる。	【長所】 複数教員での授業進行、内容および方法改善
	【特色】 先端的な研究ができる。	【特色】 活発なディスカッション	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	講義要項	発表会資料	専攻の3方針	専攻の3方針	

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに基づき、生命現象に強い関心を持ち、分子微生物学分野に期待される最先端技術・知識を活用した様々な社会問題を解決できる人材を求めている。入学者選抜ではこれらに関連する学力を評価するため、微生物学、生物化学、分子生物学、英語を筆記試験科目としている。加えて、複数の教員による口述試験を実施している。これら試験結果をもとに専攻教員全員により入試判定委員会を開き、客観的で公正な合否の審議を実施している。	筆記試験と口述試験の結果を踏まえて十分に検討し学生を受け入れ、研究室および専攻で適切性について点検、評価している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 専攻の研究に関連する分野の学力を評価できる。	<b>【長所】</b> 複数の教員によって多面的に点検、評価できる。
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	専攻の3方針、大学院募集要項	専攻の3方針

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻設置の趣旨に基づいて、生命科学分野における創造的、独創的な研究を推進できる人材を養成できる学科専任教員を配置している。ホームページ上や専任教員の公募の時に本方針を明示している。	専任教員 10 名（教授 5 名、准教授 5 名）からなり、専攻の 2 分野（微生物機能分野、生物間相互作用分野）において十分な教育研究指導が行える。	教員募集や採用については専攻教授からなる人事委員会で基準を設けている。また、全教員の業績を確認し、昇格の規定を満たしているか、将来的にどのタイミングで昇格できるかを議論している。	教員の資質向上のために研修を受講するとともに、自己評価点検や学生からの授業評価を改善の参考にするようにしている。	学科専任教授会を中心に、研究室毎の教育研究の内容確認および方向性の明確化を進め、分野および専攻の方針と一致しているか評価し、必要に応じて改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 生命科学分野の教育研究環境の充実	【長所】 分野毎にバランスよく専任教員が配置されている。	【長所】 適切な募集・採用・昇任を進めている。	【長所】 なし	【長所】 教員個々の自由度を保ちつつ、必要な点検・改善を進めている。
	【特色】 微生物学分野を軸とした生命科学分野の教育研究環境の充実	【特色】 5 つの研究室の教員の専門性や年齢構成のバランスが保たれている。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	HP	HP	人事申請資料	自己教育評価 授業評価	研究業績

学部・研究科名 生命科学研究科（農学研究科）  
 学部長・研究科委員長名 坂田 洋一（上原 万里子）  
 学科名・専攻名 バイオサイエンス専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究室という集団の中で、研究、実習を行うことでコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性や対人関係の構築力を養うと共に、各個人の独自性、創造性を発掘する。	最先端の知識、技術を習得する中で、自ら情報を収集する能力、問題解決能力を養う。	自らの研究内容を自在に発信・討論できる能力を養成する。
実行サイクル	<u> 2 </u> 年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） <u> 2 </u> 年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）	<u> 2 </u> 年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） <u> 2 </u> 年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）	<u> 2 </u> 年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） <u> 2 </u> 年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）
実施スケジュール	分野ごとの特論実験（一）、（二）において研究室内での実験実習、担当教員とディスカッションを通じて教育指導を実施する	分野ごとの特論（一）、（二）において基礎的な知識や最新の研究の動向を理解すると共に、学会、研究会に参加する。	研究室ごとに開講・実施されるプレゼンテーション法において、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また研究成果を国内外の学会、研究会で発表する。
目標達成を測定する指標	研究室での活動率、および中間発表会、修士・博士論文発表会によって判断する。複数の教員で各大学院生の進捗を把握すると共に、適切な指導を行う。	中間発表会、修士・博士論文発表会で判断する。また学会、研究会で得られた情報を教員と共有する。	中間発表会、修士・博士論文発表会によって判断する。また学会での発表も評価の指標とする。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	適切にスケジュールを実施することにより、目標を達成している。	自らの情報収集をもとに新たな課題の提案などもあり、また問題解決を行うためのコミュニケーション能力も十分に示された。	積極的な学会発表、参加を行った。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 研究（研究室活動）が主であるため、院生同士での繋がりが密である。	【長所】 ・異分野の教員との積極的なディスカッション。	【長所】 ・年2回程度の外部での発表を目指している。
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	中間発表会、修士・博士発表会プログラム	中間発表会、修士・博士発表会プログラム、発表学会リスト	中間発表会、修士・博士発表会プログラム、発表学会リスト

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	生命科学分野における先端研究を推進させる為に、国内外での研究動向、情報をいち早く収集する。	先端研究の推進には、先端技術を駆使した機器および試薬の使用が必須であるため、外部からの競争的研究資金を積極的に導入する。	学術論文の投稿だけでなく、一般向けの講義、講演会やインターネット、出版物を通じて研究成果を発信する。
実行サイクル	2年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） 2年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）	2年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） 2年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）	2年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） 2年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）
実施スケジュール	学会、研究会に参加しこれらの情報収集に役立てる。また有益な情報は学科教員間で情報交換する。	原則として、教員全員が、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金に申請する。	学内、学外での模擬講義、出張講義、講演会を実施する。Web上での情報発信を行う。
目標達成を測定する指標	学会、研究会への参加状況を確認する。	外部資金申請者、獲得者を確認する。	投稿論文数、模擬講義、講演の回数を確認する。ホームページのコンテンツ改訂を確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	適切にスケジュールを実施することにより、目標を達成している。	全員ではないが外部資金の獲得状況は良好である。 概ね、全ての教員が学内におけるプロジェクトや科学研究費補助金等の競争的研究資金に申請し、研究資金獲得数は、科研費が8件、科研費以外が8件を達成できた。	状況は良好である。 概ね、学科所属の研究室が国内外の研究コミュニティで研究発表に努め、研究成果を論文として国際科学雑誌へ36報掲載した。 国内外において、62件の学会発表を行った
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・特になし  【特色】 ・特になし	【長所】 ・特になし  【特色】 ・特になし	【長所】 ・他分野の研究者同士での積極的な交流が可能。  【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし  【課題】 ・特になし	【問題点】 ・なし  【課題】 ・特になし	【問題点】 ・なし  【課題】 ・特になし
根拠資料名	学会、研究会への参加状況	外部資金申請、獲得状況	論文リスト、模擬講義実績、講演会実績

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	本専攻での研究成果を海外に発信する。	生命科学分野の教育・研究を通じてグローバルな視点を持ち、世界の人々と対等に意見交換のできる人材を育成する。
実行サイクル	2年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） 2年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）	2年サイクル（令和2年～令和3年、農学研究科） 2年サイクル（令和3年～令和4年、生命科学研究科）
実施 スケジュール	国際学会への参加を奨励する。また研究成果を英語の論文としてまとめ発表する。	英語によるプレゼンテーション研修を実施する。国際協力センターの留学プログラムの周知と短期留学を奨励する。
目標達成を測 定する指標	国際学会への参加回数、論文掲載数を確認する。	英語プレゼン研修については発表会を行い成果を評価する。留学プログラムの参加状況を確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	世界的な疫病の影響により、国際学会の多くが開催中止となったために、参加ができなかった。 研究成果を論文として国際科学雑誌へ36報掲載した。	疫病の蔓延により、海外インターンシッププログラムの企画、遂行を断念した。 オンラインアプリの活用により、海外研究者によるセミナーなどへの参加はのべ3回おこなった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・特になし  <b>【特色】</b> ・特になし	<b>【長所】</b> ・特になし  <b>【特色】</b> ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし  <b>【課題】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし  <b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	掲載論文数	外国人講師による講義、短期海外研修

学部・研究科名 生命科学研究科  
 学部長・研究科委員長名 坂田 洋一  
 学科名・専攻名 分子生命化学専攻

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	建学の精神を涵養する	各教科の学生の学習習熟度を把握しさらに教科間の連携が取れた広汎・総合的知識の獲得を目指す。	全教員で一丸となり、新入生の教育に努める
実行サイクル	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）
実施スケジュール	新入生に建学の精神について理解する機会を提供する	各教科担当教員間の連携を密にし、学生の学習習熟度及び応用力を測定し、これを向上させる又は補足する機会を設ける	全ての教員が1年生に指導する機会（講義、実験、実習）を設ける
目標達成を測定する指標	レポートを学科教員が評価する	期末試験及び専門科目の効果測定による	全教員が講義、実験、実習を担当すること
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	各研究室でのセミナーや勉強会を通じて、農大で化学研究を行う歴史的背景や意義を教授した。また課題、中間報告会や中間報告書、それらを介した教員や同級生との議論により、個々の大学院生の理解度を判断した。	座学、研究活動、議論を通じて、学部で獲得した知識や経験を更にブラッシュアップさせるとともに、多岐にわたる知識を連携させる教育を実施した。研究報告や課題に関して複数の教員との議論を通じて総合的な知識の泊特を評価し、習熟度レベルに合わせた教育と研究を行った。	全ての教員が座学、研究を通じて大学院生の指導に関わった。大学院設置1年目の本年度は、研究室内の3教員が連携して研究室所属の大学院生を指導する体制作りに注力したが、来年度は専攻中間発表会や修士論文発表会を通じて、他研究室の大学院生への教育体制も整備する予定である。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・なし <b>【特色】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし <b>【特色】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし <b>【特色】</b> ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし <b>【課題】</b> ・専攻中間発表会や修士論文発表会を通じた教育体制の充実
根拠資料名	研究報告資料	講義要項	講義要項

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	外部資金の獲得に努める	研究成果の発表を積極的に行う	円滑な研究環境の整備に努める
実行サイクル	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）
実施スケジュール	科研費を始めとする競争的外部資金や学内の研究プロジェクトに積極的に応募する	第1期生と教員がともに研究を行い、学会発表や論文の投稿などを旨とする	共通実験機器の管理体制を確立する
目標達成を測定する指標	各教員が外部資金の公募に応募したかを評価する	各教員が研究成果を発表したかを評価する	機器や備品の管理が適切に行われたかを評価する
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	ほぼ全ての教員が科研費へ応募しており、研究責任者もしくは研究分担者などとして研究費を獲得している教員も多い。また2名の若手教員が学内プロジェクトに採択されている。	コロナ禍ではあったものの、学科全体的に活発な研究活動が推進された。大学院生の研究成果を中心に論文投稿や学会発表として数多く発表出来た。対面での通常の学会の開催が少なかったため、学会発表ではリモート形式の発表や視聴が中心であり、本来の活発な学会活動を体験させたいところである。他グループとの共同研究も順調に進んでいる。	各研究室の研究設備や共通機器である核磁気共鳴装置などの維持・管理は適切に行われるとともに、実験設備の学科内での共同利用なども円滑に行えた。機器管理の役割分担も明確で、本年度着任の新規教員たちも積極的に維持・管理に参画している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・コロナ禍の学会活動の中止やリモート形式での学会発表が多かった	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・科研費以外の外部資金獲得にも努める	【課題】 ・大学院生には修了までに一度は学会での口頭発表を経験させたい	【課題】 ・研究活動をより活発化する様な研究室の雰囲気作りに努める
根拠資料名	科学研究費助成事業データベース、農生命科学研究所ホームページ	農大ホームページ、自己点検システム	なし

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	教育の質保障に取り組む	専攻の宣伝活動を積極的に行う	在学生の進学動機や、入試動向などの実態把握に努める
実行サイクル	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）	1 年サイクル（令和 3年～ 4年）
実施 スケジュール	各教員が担当科目の内容について良い点・改善すべき点を整理し、 初年度の教育内容について検証する	学内外で専攻の魅力について紹介するとともに、HPなどで情報発信す る	アンケートを実施し、どのような学生が入学したのかを把握 し、今後の宣伝活動のための情報収集を行う
目標達成を測 定する指標	次年度へ向けて教育内容を見直す機会を設定する	情報発信を行ったイベント、媒体について評価する	アンケート結果などを集計し、蓄積されたデータについて評価 する
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員や各研究室内の教育活動は順調に進んでいるが、研究室を跨 いだ教員間での相互確認までは至っていない部分がある。来年度早々 に専攻全体での中間発表会を実施し、個々の大学院生の熟達度を専攻 内全教員で評価するとともに、各教員の教育と研究指導の方向性を互 いに確認する予定である。	主に学科、研究室のホームページ、教員・研究情報を通じて発信すると ともに、学会活動や研究活動を通じた専攻の情報発信に努めた。専攻（学科） のホームページに関しては、昨年度まで更新頻度がやや低かったが、本年 度は学科・専攻内での情報を随時更新した。各研究室のホームページや教 員・研究情報の更新には若干頻度の差が見られるので、この点は改善した い。	本件に対する特別な調査は実施しなかったが、博士課程設置に伴 うアンケート調査や、大学院生との日々の会話から。各研究室の 持つ魅力や、進学者の化学への興味と研究意欲の高さは確認して いる。ただし進学後に意欲の低下が見られた学生も一部いたこと から、学部教育や大学院入試説明会などを通じて、大学院での教 育研究についてより十分な説明が必要かも知れない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・中間発表会を通じて専攻内全教員間で教育効果を確認する	【課題】 ・全ての研究室・教員でホームページなどを通じた情報発信に努める	【課題】 ・引き続き、進学の魅力を十分に伝え意欲の高い学生を確保する
根拠資料名	なし	研究室ホームページ、教員・研究情報	博士課程設置に伴うアンケート

学部・研究科名 生命科学研究科  
 学部長・研究科委員長名 坂田 洋一  
 学科名・専攻名 分子微生物学専攻

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	今年度は修士課程の開設年度のため、試行しながら各講義科目を実施し、講義後に改善点を含め考察する。		
実行サイクル	_____1年サイクル（令和3年～令和3年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）
実施 スケジュール	4月～7月 講義の実施 9月～1月 講義の実施 1月～2月 反省点や考察を加えた令和4年度院授業計画の作成		
目標達成を測定する指標	講義の出席状況、レポートの実施と評価。		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	大学院生の出席状況やレポートの内容についてのディスカッションにより大学院生が知識を深めるために必要な改善点が検討できた。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・なし  <b>【特色】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・  <b>【特色】</b> ・	<b>【長所】</b> ・  <b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし  <b>【課題】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・  <b>【課題】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・  <b>【課題】</b> ・
根拠資料名	授業評価アンケート		

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	初年度は、研究室ごとに中間発表を実施し、また学会への聴講を含む参加と聴講レポートの作成を行う。		
実行サイクル	_____1_____年サイクル（令和3年～令和3年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）
実施スケジュール	各所属研究室にて、5月頃に修士論文テーマ発表会、10月頃に中間発表会を実施する。研究室ごとに関連学会への参加を支援する。		
目標達成を測定する指標	各研究発表会への取り組み状況と実施後のディスカッションを通じて、学生ごとの研究進展調査とその評価を実施する。学会聴講のレポートを評価する。		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	計画通りに修士論文テーマの中間発表会を実施し、加えて、学会の聴講と発表をした。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	研究報告資料		

## 3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	修士課程修了後の進路目標を早期に設定するために、各学生の進学／就職活動への円滑な導入を支援するための学科独自の体制を構築する。		
実行サイクル	_____ 1 年サイクル（令和3年～令和3年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）
実施スケジュール	博士後期課程進学希望者には学術振興特別研究員制度（DC1）への応募の準備や斡旋などを行う。就職活動希望者には、インターンシップ等を通じた企業活動への参加や卒業生の招致による就職支援会等を実施する。		
目標達成を測定する指標	大学院説明会や就職支援懇談会実施後にアンケートやレポート等を実施し、各学生の進路調査を実施すると共に、研究室ごとに各学生の調書を作成し、適切な進路指導を行う。		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	修士課程1年生に対して、博士後期課程について説明すると共に、就職活動に関連する情報提供やインターンシップ、個別相談等による幅広いサポートをした。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	なし		